



2018年9月1日発行  
 (毎月1日発行)  
 1984年8月15日第3種郵便物認可  
 発行所/(公財)熊本YMCA  
 〒860-8739  
 熊本市中央区新町1-3-8  
 Tel 096-353-6397代



手前左から 亀井 純子さん、明德さん、京子さん、大嘉徳くん

## おにぎりから始まった震災対応

「益城になんとか食事を届けてもらえませんか!」。益城町総合運動公園を運営する熊本YMCAの災害対策本部から、亀井純子さんに電話があったのは2016年4月16日、熊本地震の本震が発生した数時間後のことでした。

純子さんの夫、明德さんが社長を務める亀井ランチのルーツは149年前に遡ります。明德さんの曾祖父が乾物卸売業を始めたのが1869(明治2)年。その後、事業形態を変えながら、1968年(昭和43)年に現在の弁当・給食の製造販売業の亀井ランチが設立されました。経営理念は「食を通して、お客さまと社員の幸せを実現する」。防腐剤や着色料などの食品添加物がたくさん入った食事では人は幸せになれない。みんなが幸せになれる弁当を作ることが社員の幸せにつながる!——先代社長である父(故人)と母で現会長の京子さんの思いが今も受け継がれています。

2016年4月14日夜、熊本地震(前震)が発生。ほどなくして各地方自治体や自衛隊からも弁当供給の要請が入り始めます。被災した社員たちも徐々に会社に戻ってきました。「予約の注文はキャンセルし、おにぎりに切り替えよう」。ひっくり返った大型機械を立て直し、使用可能な機械をフル稼働させておにぎりの生産を開始。被災者はもとより、インフラ復旧者を食で支援するという形で亀井ランチの震災対応は始まりました。

## 「食で人を幸せに」受け継がれる思い

### 備え、社員、そして家族の支え

16日未明の本震で工場は前震よりも深刻な状態に陥りました。おにぎりの生産は中断を余儀なくされます。しかし、明德さんと社員たちは諦めませんでした。上水道が止まると、社員と避難してきた家族たちで飲用可能な井戸水に配管を切り替え、4時間後にはおにぎりの生産を再開するという「執念」を見せます。前震から本震直後の大混乱の中、「1個でも多く届けたい。私たちがやらねば誰がやる。自分たちが皆の命を支えているんだ!」という思いが、明德さんたちを突き動かしたのです。その後、驚くべき速さで工場の機能を復旧させ、徐々に弁当が届けられるようになっていきました。

「2000年の新工場稼働時から災害に対する意識はありました。水は上水道と地下水の2系統を持っていましたし、ガスはプロパン、地下にはオイルタンクもあります」。亀井ランチは非常時にも対応できる『自立製造できる工場』だったのです。

発災直後から食事の供給を可能にしたもう一つの要因は「社員」です。京子さんは「自分たちの家も大変な中、社員たちが駆けつけてくれました。ありがたかったですね」と振り返ります。しかし、この非常事態に社員やパートスタッフも疲労困憊。地震の影響で小中学校の多くが休校する中、ある時から社員の子どもたちが「なにか人の役に立ちたい」と工場のラインに立つようになっていました。社員と家族が支え合い、その絆は日を追うごとに強くなっていったといいます。



地震直後の混乱の中でおにぎりを製造

### 活かされている聖書のことば

純子さんは震災後の一連の亀井ランチの姿を客観的に捉えています。「あれほどの混乱の中で、なぜ社員とその家族が同じ方向を見続けることができたのか。実直な社長の姿を見てきた社員たちと、長年受け継がれてきた経営理念が重なり合った結果ではないでしょうか」。

経営理念の背景には実はYMCAとの関係があるそうです。京子さんは高校を卒業して1953(昭和28)年からYMCAの簿記学校に通い始めました。「その時に教えられた聖書のことば『汝、隣人を愛せよ』を、先代社長であった夫と経営の礎にしてきました」。

現在、亀井ランチはYMCAフィランソロピー協会に、純子さんは熊本にしワイズメンズクラブに所属し、YMCAを通じた社会貢献も続けている亀井さんファミリー。「小さな力でも誰かのためになる。こんな幸せなことはないですよ」と純子さんは話します。

「YMCAで会社のPRIはしたくないなあ」と繰り返していた明德さん。最後に「健康のための食事作りをもっと追求していきたい」とこれからの抱負を語りました。

## Pickup

カヌーって楽しい!  
フィッシング海遊びキャンプ



リーダーと一緒に  
ご飯作り  
はじめて体験1泊キャンプ

盲学校の生徒たちが  
ポニーキャンプで  
スキューバダイビングに挑戦



# Information 行こう 見よう 深めよう

10月8日 Monday

## 地域と共に70年 熊本YMCA創立70周年記念式典

集う  
×  
学ぶ

熊本YMCAは1948年に創立し、今年70周年を迎えました。青少年の全人的成長をはかるとともに、会員によるボランティアの伝統と多くの皆様のお支えにより、今日に至るまで様々な社会教育活動を展開してきました。

皆様のこれまでのご支援ご協力を深く感謝するとともに、この喜びを多くの方々と分かち合うことを願い、記念式典並びに感謝会を開催します。

回 10月8日(月・祝)

場 ホテルメルパルク熊本(熊本市中央区水道町14-1)

スケジュール 16:00～ 第1部 記念礼拝・式典

17:15～ 第2部 記念講演

18:30～ 第3部 感謝会(参加費 5,000円)

参加を希望される方は熊本YMCA本部事務局(Tel 096-353-6397)までご連絡ください。

右記QRコードからリンクする申込サイトからも申込みできます。

お申込み



### 記念講演「寅さんとキリスト教」

一見関わりがなさそうな「寅さん」と「キリスト教」。『男はつらいよ』シリーズの主人公・寅さんの大ファンである牧師の関田寛雄さんは、「寅はいつも自由だが、自分勝手な自由ではない。自分をおぼり出して、傷んでいる人、寂しい人、辛い人、重荷を背負っている人を見ると、すっ飛んで行って助けようとする自由です」「寅には我欲がない。いつも己を捨てて人を助けに行く」と語ります。寅さんの行動と考え方はキリスト教の教えにもつながっています。寅次郎における自由と愛について、お話しいただきます。

講演者 関田寛雄さん(日本キリスト教団神奈川教区巡回教師)

テーマ 「寅さんとキリスト教～人生の喜怒哀楽を巡って～」

関田寛雄さんプロフィール 1928年、北九州生まれ。青山学院大学神学科を経て、日本基督教団牧師となる。川崎市に開拓伝道に入り、桜本教会、川崎戸手教会を設立。その間、青山学院大学教員としても従事。1997年定年退職。日本聖書神学校、農村伝道神学校、聖公会神学院などで講師として仕える。現在、日本基督教団神奈川教区巡回教師。著書に「断片の神学」、「十戒・主の祈り」など。



9月・10月・11月

## 楽しみながらチャリティ YMCA祭

今年も各センターでお祭りを開催します。地域の皆さん、どなたでも来場可能です。益金は、災害復興支援、国際協力活動、地域活動、青少年育成等のために用います。また、YMCA祭ではバザー出店品、抽選会賞品のご寄贈をお願いしています。当日ボランティアも募集します。詳細は各センターにお問合せください。

楽しむ  
×  
チャリティ

### 水前寺幼稚園 わいわい秋まつり

園児や保護者はもちろん、地域の皆さんもぜひお越しください。

回 11月10日(土) 11:00～

場 YMCA水前寺幼稚園(熊本市中央区出水3丁目12-1)

内容 食バザー、むかし遊び、ゲームコーナー、のみの市など

場 Tel 096-362-4141

### 中央センター 前進祭

今年で50回目!メイン会場は広い体育館。家族揃って楽しめます。

回 11月11日(日) 10:30～15:00

場 中央センター(熊本市中央区新町1-3-8)

内容 食バザー、ステージ発表、ゲームコーナー、抽選会など

場 Tel 096-353-6391

### ながみねファミリーセンター ながみね祭

毎年大賑わいのながみね祭。今年はステージイベント・出店がPower up! 乞うご期待!

回 9月22日(土) 16:00～20:00

場 ながみねファミリーセンター(熊本市東区長嶺南3-1-107)

内容 夜市、各種発表会、お祭り広場、抽選会、のみの市、バザー、ゲーム等

場 Tel 096-385-0676

### むさしセンター むさしフェスタ

今年のテーマは「Let's ポジティブ! ～みんなつながれ むさしフェスタ」。様々なステージイベントとのみの市が自慢です。お楽しみに。

回 10月13日(土) 10:30～14:00

場 むさしセンター(合志市幾久富1866-1339)

内容 食バザー、ステージ発表、ゲームコーナー、革工芸体験など

場 TEL 096-248-6334

### 東部センター 帯山まつり

地域のお祭り「帯西まつり」と同時開催!毎年、国際色豊かな食バザーが好評です。

回 10月28日(日) 9:15～15:00 ※食バザーは11:00～

場 帯西コミュニティセンターグラウンド(東部センター横)、帯西小学校

内容 食バザー、YMCA学院日本語科スピーチなど

場 Tel 096-382-6661



## R | E | P | O | R | T

[ 7月16日⇒ 8月8日 ]

語学

## 熊本の夏を感じながら 日本語学校夏期集中コース

日本語入門～中級者を対象に、毎年、夏と冬に行っている上通日本語学校の短期集中コース。今年の夏期コースは7月16日(月)から7月27日(金)までと7月30日(月)から8月10日(金)までの2期に分かれて実施しました。台湾・マカオ・ロシア・タイから、合計11名が参加。17歳から60歳まで幅広い年代の顔ぶれでした。

授業は買い物や趣味などすぐに使える場面や話題を取り上げ、会話を中心に進めました。学んだことをその日のうちに使えて、参加者は非常に満

足した様子。最終日に授業の成果を披露する発表会も実施し、簡単な日本語ではあるものの、堂々とした発表ができました。

課外活動として、イルカウォッチング、阿蘇の日帰りツアー、ミニ畳作り等、熊本ならではの活動も企画。「レッスンと活動が非常に面白く、充実した2週間を過ごしました」「熊本はあついですが、先生や職員の皆さんはそれ以上にあついです」「冬にも熊本に来たい」といった感想が聞かれました。 職員 庄俊



課外活動

国際

## 日韓の盲学校生徒 スポーツと音楽を通して交流

7月30日(月)から8月2日(木)の3泊4日で第35回日韓視覚障がい青少年交流プログラムが熊本ワイズメンズクラブとの共催で行われました。今年は韓国大邱の光明学校から11名を迎え、熊本県立盲学校の生徒との音楽・スポーツを通じた文化交流をしました。

音楽交流ではお互いの演奏を披露。スポーツ交流では卓球バレーやサウンドテーブルテニスを行いました。卓球バレーは卓球台をベースに改造された台と音が出る卓球玉を使い、木の板でボール

を打ち返すというもの。韓国の生徒は初めてにもかかわらず呑み込みが早く、熱い戦いが繰り広げられました。また、熊本地震の現状について学ぶために熊本城を巡り南阿蘇まで足を延ばしました。

参加した熊本の生徒は、「国が異なっても、これだけ心に残る交流ができたことは、本当に素敵なことだと思います。ぜひ、これからも、光明学校との交流を続けていきたいと、強く思いました」と感想を寄せてくれました。

職員 牛嶋加佐喜



平和

## 世界の仲間と出会う 国際青少年平和セミナー

国内外から約80名が広島に集い、8月4日(土)から8日(水)に開催された国際青少年平和セミナーに参加しました。被爆者体験講話、原爆資料館の見学や原爆慰霊碑めぐりの後、平和についてのグループ討議を行いました。

平和な世界を実現するために私たちにできることの一つとして、このセミナーに参加すること自体も挙げられるのではないかと思います。何故ならこのセミナーの目的は原爆や戦争の恐ろしさ、非人道さを学ぶだけではなく、参加者の力で平和と

は何かを考え、形にしていこうとすることにあるからです。

戦争について学ぶ時、暗い話を耳にするものですが、平和について学び、それを自分の力でクリエイティブに表現しようとする、こんなにも明るくて、前向きな気持ちになれるのだということに驚きました。今日でも世界のどこかで紛争が起こり、多くの人が苦しんでいます。人との出会いや異文化理解を通して、私たちの力で、少しでも世界を変えていくことができたらと思います。

熊本大学4年生 小野佳奈子



右端が小野佳奈子さん

## 岡総主事の タラント

Vol.51



## 心の休息

全国YMCA少年少女水泳大会が8月16日(木)～17日(金)に熊本で開催され、全国のYMCAから集まった約160名の子どもたちが日ごろの練習の成果を競いました。大きな歓声と共にお互いをたたえる姿に私も大きく感動しました。熊本地震から2年4カ月が経った今も復興の道半ばですが、全国の仲間からの支援に

対し感謝を述べる機会も与えられました。

私たちは、震災による影響はもとより、現代社会を生きる上で様々なストレスを受けています。時にそのサインを見落とすこともありますが、自分自身では意識していないストレスにも身体は正直に反応します。「自分は大丈夫」「自分の問題は自分で解決しなければならない」と思っている人は、いつしかその限界を超え、心身共に折れるリスクがあります。

ストレスに強いと思われる人は、実はストレスを感じない人ではなく、自分の弱点をしっかりと認識している人、サインが現れた段階で適切な解消を行っている人だといえます。

使徒パウロは、神の力は、弱さのうちに現われることを述べています。その「弱さ」とは、自分

が弱点と知っていることや、不利な状況、失敗の経験も含みます。自分の「弱さ」を知らずにいると高慢になり、神の力と栄光を現わすことはできません。神はご自身の愛する者にあえて失敗の経験を積ませ、弱さを心に刻まれます。つまり、弱さの中に神の力が現されるのです。

ストレスは特に私たちの「心」と「身体」、そして「行動」に影響すると言われています。自分の弱さを知った上で、その対応を意識したいものです。私の対処は、温泉に行きゆったりとした時間を持つこと、そして何より祈りの時を持つことかもしれません。弱さを見せられる頼れる存在が身近にすることで、心が強くなります。神様は一人ひとりに真の癒しと休息を与えてくれることを信じて歩みたいと思います。

t a l a n t o n

## 角度をズラして(笑)に変えよう! Talk Live「大丈夫、働けます。」

8月3日(金)、成澤俊輔さん(NPO法人FDA理事長)の著書「大丈夫、働けます。」をもとにしたトークライブが熊本YMCA中央センターで開催されました。その内容の一部をご紹介します。

僕は視覚を徐々に失う網膜色素変性症で、視野は小学校でサッカーボール、中学生でソフトボール、大学生で500円ほどになり、20代前半でほぼ見えなくなりました。「世界一明るい視覚障がい者」を自称し、障がいや病気を抱える就労困難者と向き合う日々を送っています。



成澤 俊輔さん(左)と村尾 隆介さん(右)

空気が読めない、人間関係が苦手、電車移動ができない、引きこもり、身体や精神の障がいなど、世の中には“生きづらさ”“働きづらさ”を感じている人たちが多くいます。そんな人たちに、「大丈夫」と言うために、僕は生き

ています。それぞれ、できることとできないことには違いがあります。その人の能力に合わせて仕事をつくることを「仕事の切り出し」と呼んでいます。

日本の職場では、複数の仕事を同時にこなすマルチタスクの能力が求められるがちです。でも、強みは一つあればいい。どこかに通って働くことだけが、現代社会における仕事ではありません。引きこもりでも、ITでテレワークが実現する。過集中の人には、インターネット上のパトロール業務を任せます。一般的には弱みだと思われることも、角度を変えて見れば強みになるのです。

好きと得意、やりたいこと・やりたくないことをはっきりさせることが大切。「大丈夫」。どんな人にも必ずその人に合った仕事があります。

成澤さんの友人で、彼の経験やメッセージを文章化した経営コンサルタントの村尾隆介さんは、熊本YMCA震災復興支援募金のアドバイザーを務め、地震の直後からYMCAの活動を様々な形でバックアップし続けています。会場では、村尾さんが間を取り持ち東京・電巧社から提供された「震災支援」がプリントされたイベントTシャツ170枚が熊本YMCAに贈呈されました。



## 熊本地震復興支援

熊本地震からまもなく2年半。熊本YMCAは、今も益城町木山、御船町木倉地区の仮設団地の地域支援センターを運営しています。



7月22日には木山仮設団地で夏祭りが開催されました。YMCAからはポップコーンとソフトクリームを出店。途中激しい夕立もありましたが、仮設団地外からもたくさんの来場者があり、共に楽しい時間を過ごしました。

### 熊本地震復興支援募金

皆様からの募金は、仮設住宅における見守りとコミュニティづくり、子どもたちのケア等の活動に用います。ご支援をお願いいたします。

**募金期間** 2019年4月30日まで

**募金方法** お近くのYMCAに直接お持ちいただくか、下記銀行口座にお振込みください。

**振込先** 肥後銀行(0182)新町支店(103)(普)1296939  
口座名義 災害支援緊急募金 代表理事 岡成也(オカナリヤ)  
※住所・氏名・電話番号もお忘れなくご記入ください。  
※お振込みの際は、お名前の前に「熊本地震」とご記入ください。

**お問合せ** 熊本YMCA本部事務局  
Tel 096-353-6397



「神をほめたたえるには、最も弱くて小さな人たちがこそ不可欠なのです。という、根本的な福音の原理を私たちは知っておかなければならない。」という言葉に出会いました。

確かに聖書を読んでいきますと、弱い人々、神の救いと癒やしを必要としている人ばかりが登場してきます。アダムから始まり、アブラハム、モーセ、ダビデはもとより、ペテロ、ヨハネ、トマス、イスカリオテのユダ、パウロ。そして、多くの病める人々。私もその一人です。

### あなたを孤児にはしない

ヨハネの福音書14章18節  
わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。

そんな事を思い巡らしている時、次の御言葉が目にとまりました。「それどころか、体の中です。」(コリントの信徒への手紙一 12章22節)と。弱くてもいいんだ。いやむしろイエスは弱い者を必要だと云ってくださっているのです。弱い人、癒やしを必要としている人、つまり、助けを必要としている人々が沢山いるからこそイエスは世にいられたのです。

でも、教会は、いえ私はどれだけそうした人々に心を向けてきただろうか? もし、そのような人を排除しようとするなら、それは、神様の創造の御業を否定し、愛の御業を破壊することではなんでしょうか。けれども、私たちのために命をさへ捨ててくださったイエス様は、「私は決してあなたをみなしごにはしておかない」と言われました。私の弱さを知っていてくださるお方は、いつも私と共に歩んでくださるお方なのです。

## わたしと聖句



熊本ナザレン教会  
中出 牧夫

発行所／(公財)熊本YMCA  
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8  
TEL 096-353-6397(代)

発行人／岡成也 編集人／因幡 亮治  
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



### 熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動  
地球環境の保全 ウェルネス活動 平和な世界

### 2018年度基本聖句

コロサイの信徒への手紙 3章14節  
愛を身に着けなさい。  
愛は、すべてを完成させるぎずなです。